

3/27
少福

介護職員の虐待 510件

被害高齢者 8割が認知症

厚生労働省は二十六日、介護職員による高齢者への虐待が二〇一七年度に五百十件（前年度比五十八件増）あり、過去最多を更新したと発表した。十一年連続の増加で、被害者は認知症の人が約八割を占めた。家族や親族による虐待も七年ぶりに過去最多を更新し、六百九十四件増の一萬七千七十八件だった。家族らによ

る事例では、殺人や心中のほか、虐待の疑いなどで死亡したケースが前年度から三人増の二十八人いた。

厚生労働省は「社会的関心が高まり通報が増えた」とも影響している」と分析する。虐待防止法に基づき、毎年

県内市町が二〇一七年度に把握した介護職員による高齢者虐待は、前年度と同じ二件だった。家族や親族による虐待は、前年度比五件減の百四件だった。県は「重度化する前に市町などに早期に相談してほしい」と呼び掛ける。

県長寿福社課によると、

二事例はなかった。
施設・事業所の種類では、特別養護老人ホームが30・4%で最も多かった。
原因（複数回答）は「教育・知識・介護技術の問題」が60・1%と最多で、「職

員のストレスや感情コントロールの問題」が続いた。
家族や親族による虐待の加害者は息子が40・3%、夫が21・1%。原因（複数回答）は「介護疲れ、ストレス」が24・2%で最多だった。

二件とも被害を受けた人の体的が最も多く、次いで心理的、介護等放棄、経済的となつた。被害を受けた78・7%が女性で、全体の半数が認知症を患つていた。
虐待したのは「息子」が最多。「夫」「娘」などと続いた。通報・相談先は県のホームページに掲載されている。（山本洋児）

員のストレスや感情コントロールの問題」が続いた。
家族が市町に相談し発覚した。

家族らによる虐待は、身体的虐待は、心理的虐待は、男性職員が七十代の女性を介護する際に「残業代がかかる」と不適切な発言を繰り返した。身体的虐待は、家族の同意などがないまま、施設全体で九十代の男女各一人、ハチ代の女性一人の計三人を拘束した。